

写真で
振り返る70年

当社は本年創立70周年を迎えます。表紙では創業から前半35年間にわたるエポックな製品、出来事を写真でひもといってみました。

1

2

3

4

5

1

2

3

4

5

ALPS

No.169
証券コード 6770

第85期 報告書
アルプス電気株式会社 2018年6月1日発行

「ALPS SHOW 2018」
ご招待のご案内

おかげさまで当社は70周年を迎えます。

6

7

8

9

10

11

12

13

14

15

- ① 当社第1号製品ロータリースイッチ。短波放送バンド切換えに使用された…【1948年】
- ② 創業当時、手書きのロータリースイッチ設計図……………【1948年】
- ③ ラジオブームに乗り大ヒットした選局用部品のバリコン……………【1949年】
- ④ ポリウム(可変抵抗器)の製造・販売をスタート……………【1958年】
- ⑤ 各種データやオーディオ用音声の記録・再生用磁気ヘッドの生産を開始 ……【1967年】
- ⑥ PC用記録装置として大ヒットしたフロッピーディスクドライブ……………【1980年】
- ⑦ 世界初のカーナビ、エレクトロジャイロケータを本田技研工業株式会社様、アルパイン(株)と共同で開発……………【1981年】
- ⑧ 国産初のマウスも当社から……………【1983年】
- ⑨ 時代に先駆け光通信用部品を発表……………【1983年】
- ① 創業間もないバラック建ての社屋で手づくりの生産……………【1948年】
- ② 本社・東京工場第1期工事完成……………【1954年】
- ③ テレビ、ラジオの普及で生産ラインを増やし大増産する横浜工場……………【1961年】
- ④ 古川工場開設。これを皮切りに東北への工場展開を進める……………【1964年】
- ⑤ 「人に賭ける」との企業姿勢から生まれた研修専用施設……………【1970年】
- ⑥ 第1期海外展開。韓国に合併で「金星アルプス」を設立……………【1970年】

ジャイロケータは本田技研工業株式会社の登録商標です。

株主メモ (2018年3月31日現在)

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日	株主名簿管理人及び 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
基準日	定時株主総会権利行使確定日 毎年3月31日 期末配当金支払株主確定日 毎年3月31日 中間配当金支払株主確定日 毎年9月30日 その他あらかじめ公告して定めた日	同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 ホームページ https://www.tr.mufg.jp/daikou/
定時株主総会	毎年6月下旬		
公告掲載	電子公告により、当社ホームページ (http://www.alps.com/j/ir/index.html)に掲載します。 なお、やむを得ない事由により、電子公告ができない 場合は、日本経済新聞に掲載します。		
上場証券取引所	東京(第一部)証券コード6770		
1単元の株式数	100株		

【ご注意】
1.住所変更、単元未満株式の買取・買増請求その他各種お手続きにつきましては、原則、お取り引きのある証券会社などにお問い合わせください。
2.特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、三菱UFJ信託銀行証券代行部にお問い合わせください。
3.未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

三菱UFJ信託銀行証券代行部 検索

株式事務に関するお問い合わせ
三菱UFJ信託銀行証券代行部 テレホンセンター

お問い合わせ ☎ 0120-232-711 (受付時間:土・日・祝祭日を除く平日9:00~17:00)

美しい電子部品を究めます
ALPS

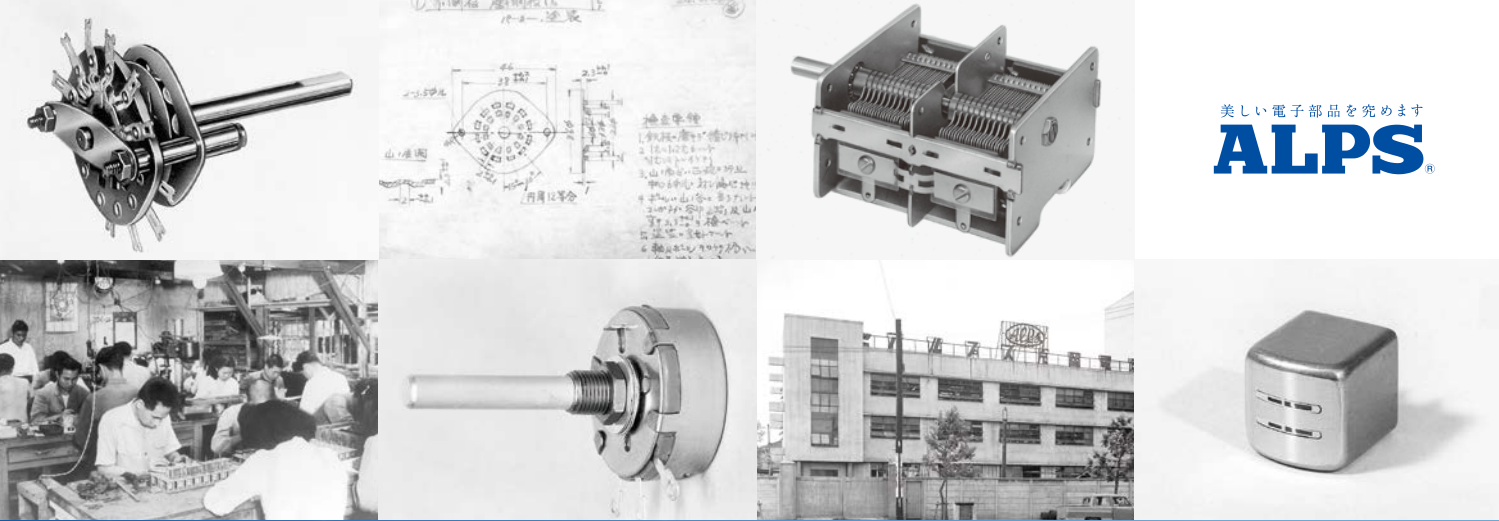
アルプス電気株式会社
〒145-8501 東京都大田区雪谷大塚町1番7号
TEL (03)3726-1211(大代表)
(03)5499-8026(IR部門直通)

FSC
www.fsc.org

ミックス
責任ある木質資源を
使用した証
FSC® C014687

VEGETABLE
OIL INK

Mitsubishi Chemical
Printing Naturally



ALPS No.169
証券コード 6770

REPORT

第85期 報告書
アルプス電気株式会社 2018年6月1日発行

「ALPS SHOW 2018」
ご招待のご案内

おかげさまで当社は70周年を迎えます。





アルプス電気株式会社
代表取締役社長
栗山 年弘

連結売上高、営業利益とも過去最高の新記録を達成。
「持続的成長が可能な会社」を目指し、
グループ会社がそれぞれ力を発揮して
企業価値の向上を図ります。

2018年3月期 通期決算のポイント

- 連結売上高8,583億円で前期比13.9%の増収
- 連結営業利益719億円で前期比62.0%の増益
- 電子部品事業、車載情報機器事業、物流事業ともに業容拡大

皆様へ

樹木の緑が色合いを深め、夏の到来を感じる季節となりました。
皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

2017年度のエレクトロニクス業界は、自動車向け市場及びモバイル機器市場のスマートフォンともに好調に推移し、ゲーム機向けはVR搭載製品が伸長しました。IoT市場は、各国で活用の動きが活発化しています。

この中で、当社は第8次中期経営計画2年目を迎え、車載市場では操作入力用モジュールや通信用高周波部品等、全般にわたり堅調でした。民生その他市場では、スマートフォン向け各種製品が高水準を維持し、ゲーム機向け製品も順調に伸びました。EHII向けはIoTをはじめ、さまざまな分野で提案活動を進めました。以上に加え、為替が期初想定より円安に推移したこともあり、業績は着実に拡大しました。2018年度は、直近ではスマートフォンの減速の影響を受けて厳しい中でのスタートになると予想していますが、自動車業界ではCASEと呼ばれる100年に一度の大変革が始まっており、車載製品は将来この新領域CASEにおける次の成長に備えるため各種施策を打ち、持続的な成長を目指してまいります。

車載情報機器事業(アルパイン(株))は、昨年おかげさまで創立50周年を迎えることができました。当期は、アルパインブランドの市販製品や欧州自動車メーカー向け純正品の売上が伸長し、

予想を上回る結果となりました。

また物流事業((株)アルプス物流)では、将来の成長に向け埼玉県加須市に大型倉庫を開設し、国内輸送と保管機能を強化しました。また、海外でもネットワークの拡充や新市場の顧客開拓を進め、取扱貨物量は着実に拡大しました。

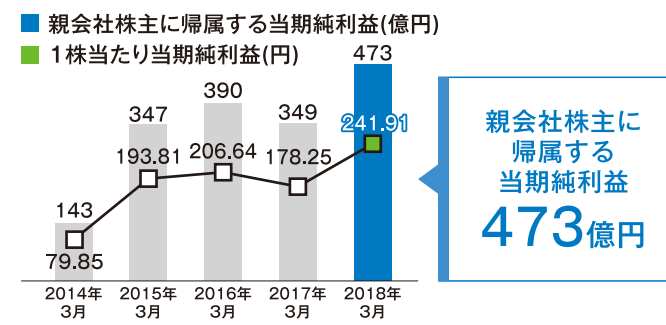
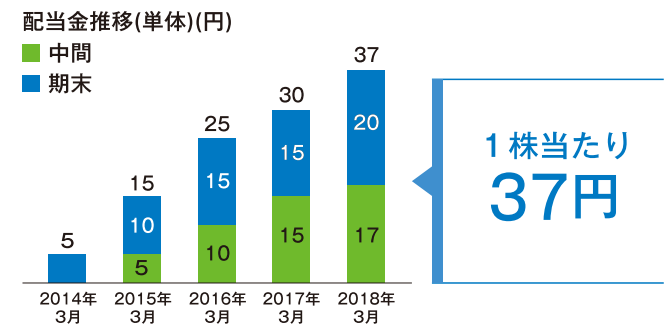
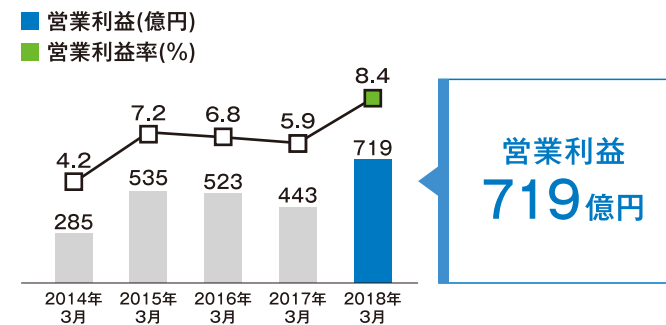
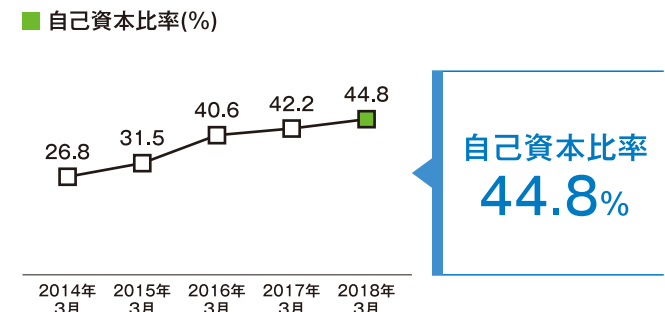
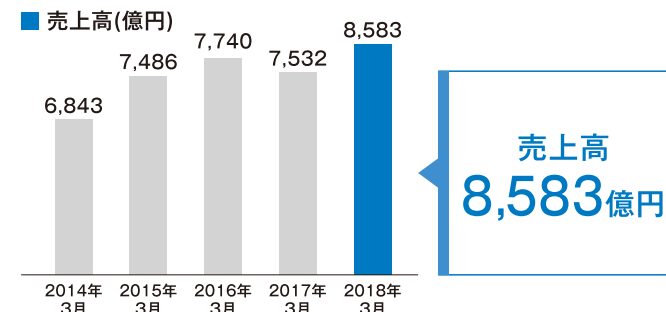
さて、昨年7月の当社とアルパイン(株)の経営統合発表以降、その目的・効果を着実に実現するために、また顧客である自動車メーカー各社の期待に応えるために、更なる検討を進めた結果、2019年1月から事業持株会社アルプスアルパイン(株)をスタートすることとしました。人財や技術をはじめ、両社の持つ豊富な経営資源をより活用しやすくするとともに、意思決定を一層迅速化してシナジーを最大限に発揮できるものと考えております。

最後に、2017年度の期末配当は1株当たり3円増配して20円、2018年度の中間配当も更に5円増配して25円とさせて頂く予定で、今後も皆様のご期待に応えるよう、一層の努力を重ねていく所存です。

皆様には、今後も変わらぬご支援、ご鞭撻を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

VR: Virtual Reality(仮想現実)
IoT: Internet of Things(インターネット・オブ・シングス)
EHII: Energy, Healthcare, Industry, IoT(エネルギー、ヘルスケア、インダストリー、IoT)
CASE: Connected, Autonomous, Shared & Services, Electric(つながる車、自動運転、シェアリング、電動化)

■ 連結業績ハイライト



次期の見通し

2019年3月期 業績予想	
売上高	8,745億円(前期比 1.9%増)
営業利益	600億円(前期比 16.6%減)
経常利益	575億円(前期比 13.8%減)
親会社株主に帰属する当期純利益	375億円(前期比 20.9%減)
想定為替レート	米ドル／円107・ユーロ／円131
1株当たりの配当金(単位)	25円(中間) 25円(期末)

※2018/3為替レート：米ドル／円 110.85・ユーロ／円 129.70



電子部品事業

売上高：5,140億円(前期比 17.4%増)
営業利益：529億円(前期比 61.4%増)

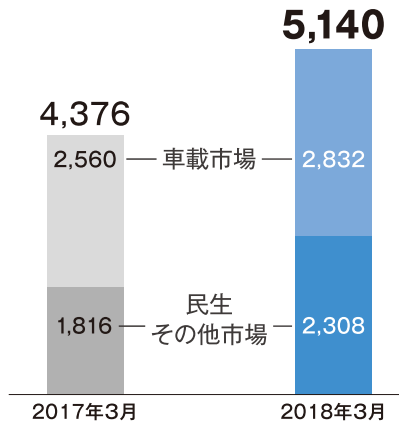
その他
1.4% 119億円

車載情報機器事業

売上高：2,676億円(前期比 10.5%増)
営業利益：137億円(前期比 144.2%増)



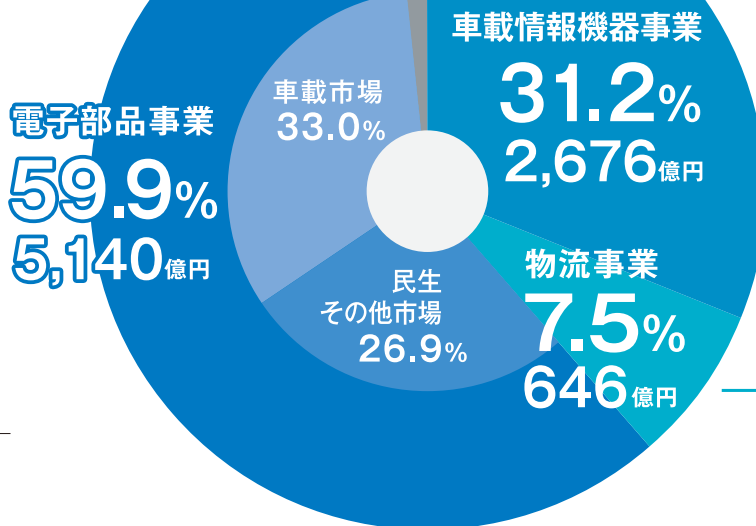
■売上高の推移 (億円)



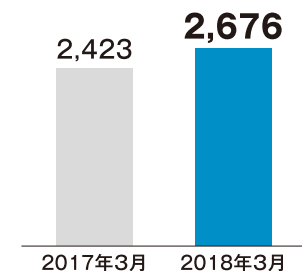
【民生その他市場】
アクチュエータが拡大し、
ゲーム機やエネルギー向けも進展

モバイル市場では、スマートフォンに搭載されるカメラ用アクチュエータが拡大し、スイッチなどコンポーネント製品も順調に推移しました。ハプティック®は、ゲーム機市場の活況により好調さを維持するとともに、さまざまな市場への展開にも取り組みました。EHIIでは、大手重電企業や電力会社との電流センサを用いたエネルギー・マネジメントに関する取り組みが進展しました。

ハプティック®はアルプス電気の登録商標です。



■売上高の推移 (億円)



物流事業

売上高：646億円(前期比 5.7%増)
営業利益：49億円(前期比 3.0%減)

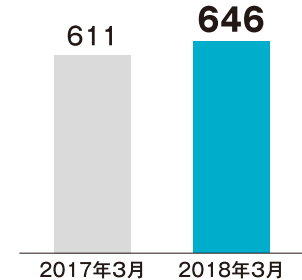
市販市場向け、純正品ともに大きく伸長

アルパイン(株)(東証一部)は、グループ再編による構造改革を推進し、強固な事業基盤を構築。国内市販市場においては、アルパインブランドによる「車種専用」製品の売上が伸びました。また新規ビジネスとして「アルパイン・カスタマイズカー」の販売を開始し、お客様の「こだわり」を追求します。純正品においては、欧州自動車メーカー向け売上が順調に伸び、為替の円安傾向も受けて、期初予想を上回る業績となりました。

国内外で倉庫・支店を開設し、 グローバルにネットワークを拡充

(株)アルプス物流(東証二部)では、顧客開拓と取扱貨物量の拡大を図り、本年5月、埼玉県加須市に大型倉庫が完成。海外展開としては、中国で倉庫の拡張や支店を開設。ベトナムとインドに現地法人を設立。北米では米国に営業事務所、メキシコで2社目の現地法人を設立するなど、グローバルに拠点・倉庫・ネットワークの拡充を図りました。

■売上高の推移 (億円)



加須倉庫外観

売上高、営業利益ともに過去最高を記録

車載市場では、CASEに対応した開発活動の活発化によって更に電装化ニーズが高まり、モバイル市場ではスマートフォンの成長は減速傾向ながら、高機能化の流れがありました。また、ゲーム機向けではVR搭載製品の伸長や、IoT市場ではさまざまな業界で多様なビジネスモデルが生まれ始めました。

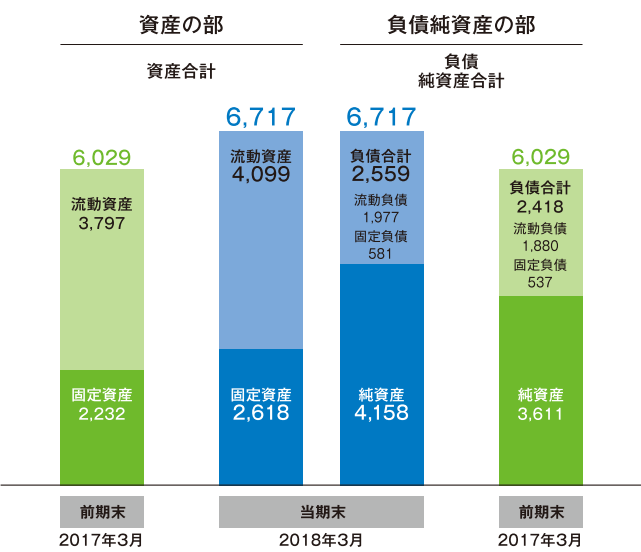
この中で、車載市場では操作入力機器を中心に全体に堅調さを保ち、民生その他市場ではスマートフォン向け製品が業績を牽引しました。更にゲーム機向けではハプティック®が着実な伸びを示しました。併せて為替が円安に推移したこともあり、業績は着実に拡大し、売上高、営業利益ともに過去最高を記録しました。

【車載市場】 自動車の電子化が一層加速する中、堅調に推移

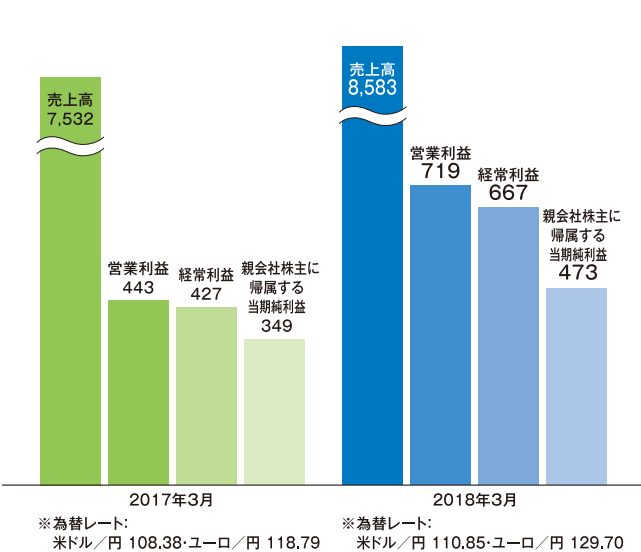
電子シフターやドアモジュールなどの操作入力機器や、車内外で情報をつなぐ需要が一層高まりBluetooth®、W-LANなどの通信用高周波製品が伸長。センサをはじめとした車載デバイス製品など、全般にわたって堅調に推移しました。



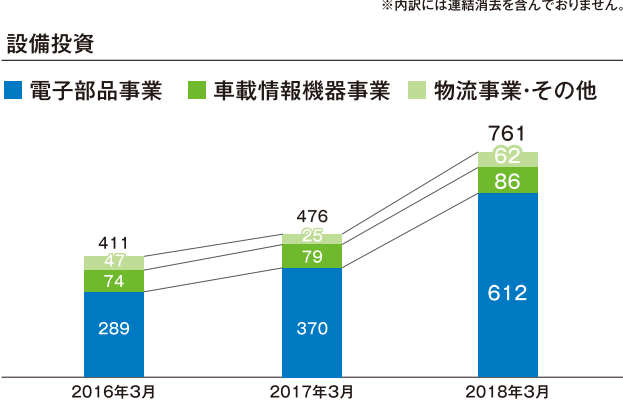
■ 連結貸借対照表の概要(億円)



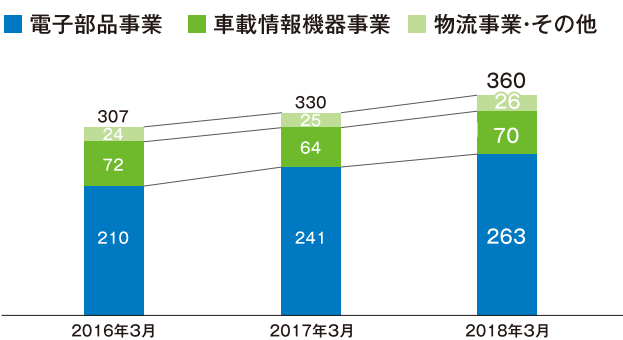
■ 連結損益計算書の概要(億円)



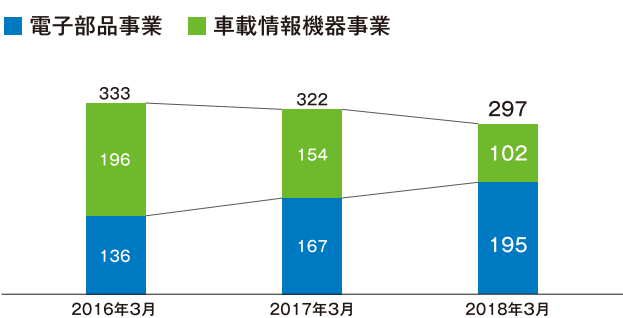
■ 設備投資・減価償却費・研究開発費の推移(億円)



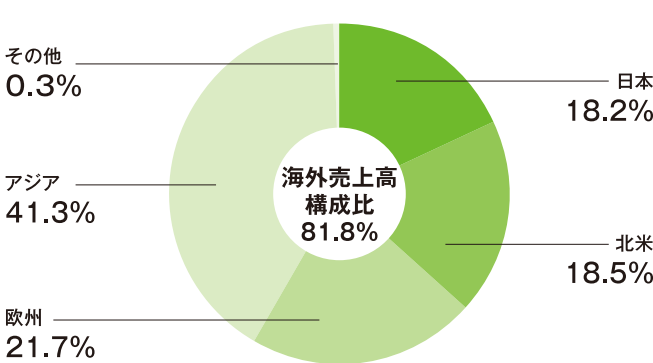
減価償却費



研究開発費



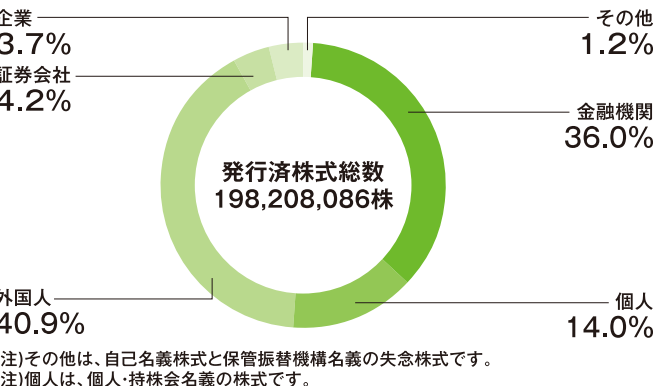
■ 地域別売上高構成比



■ 株式の情報(2018年3月31日現在)

大株主の状況				
順位	株主名	所有株式数	持株比率	
1	日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	23,713,500	11.96%	
2	日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	14,401,500	7.27%	
3	三井生命保険株式会社	3,591,000	1.81%	
4	STATE STREET BANK WEST CLIENT-TREATY 505234	3,544,700	1.79%	
5	THE BANK OF NEW YORK MELLON SA / NV 10	3,434,896	1.73%	

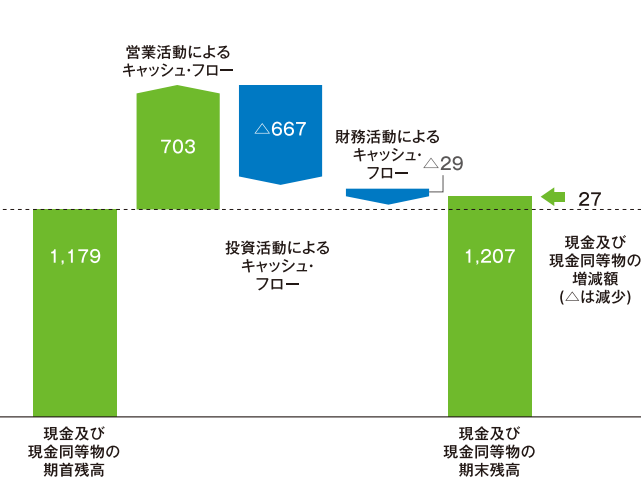
所有者別分布状況



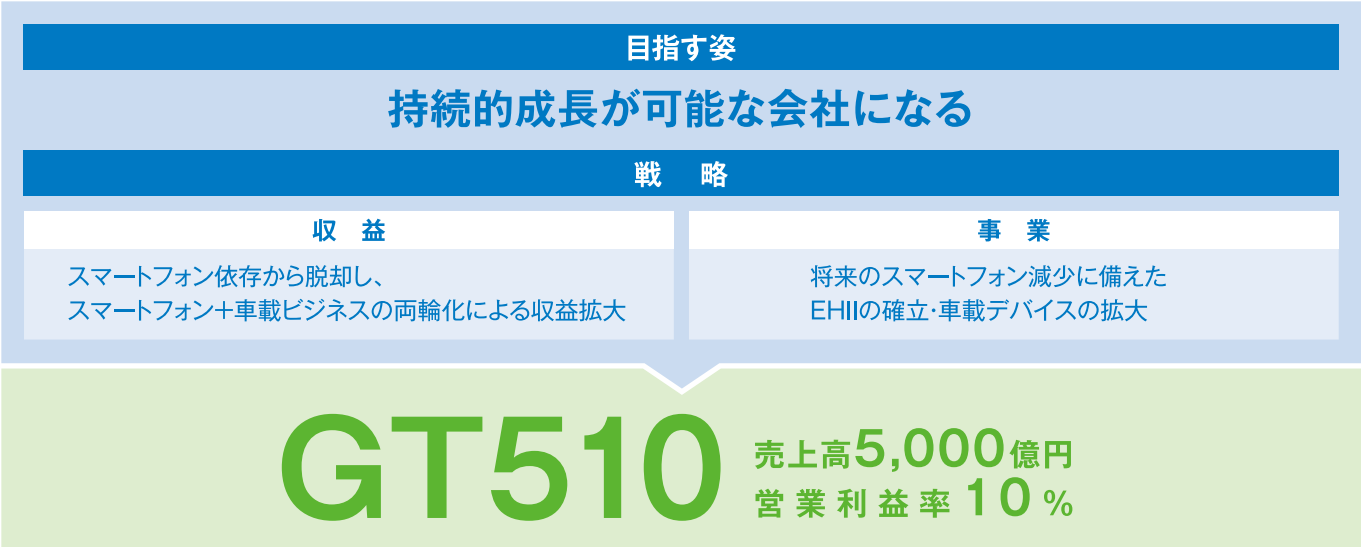
ポイント

- ① 流動資産
流動資産は、受取手形及び売掛金、たな卸資産、現金及び預金の増加等により、前連結会計年度末と比べ302億円増加の4,099億円となりました。
- ② 固定資産
固定資産は、機械装置及び運搬具、工具器具備品及び金型、無形固定資産及び投資有価証券の増加等により、前連結会計年度末と比べ386億円増加の2,618億円となりました。
- ③ 負債合計
流動負債は、未払費用、賞与引当金、製品保証引当金の増加と、支払手形及び買掛金、短期借入金の減少等により、前連結会計年度末と比べ96億円増加の1,977億円となりました。
固定負債は、長期借入金の増加と、退職給付に係る負債の減少等により、前連結会計年度末と比べ44億円増加の581億円となりました。

■ 連結キャッシュ・フローの概要(億円)



為替前提: 米ドル／円 110・ユーロ／円 125



第8次中期経営計画 2017年度の振り返り

電子部品事業では、「持続的成長が可能な会社になる」ことを目指す姿として、2016年4月より3カ年にわたる第8次中期経営計画が進行しています。

収益の柱であるスマートフォン市場がコモディティ化しても成長を続けられるよう、車載市場での更なる収益性の向上、及び新たな事業の柱の確立を重要テーマとし、電子部品事業全体で売上高5,000億円、営業利益率10%を達成目標とした「GT510」を、更に車載、モバイル両市場向けでも具体的な目標を掲げました。

2年目となる2017年度は、車載市場での売上高が前期比10.6%増の2,832億円となり「売上3,000億円の達成」に向けて着実に推移しています。「車載モジュールの収益拡大」は、スマートフォンビジネスと合わせて「収益の両輪化」を実現するために、全社一丸となった取り組みを継続して進めています。

民生その他市場では、売上高が前期比27.1%増の2,308億円となりました。この中のスマートフォンを含めた「モバイル市場向け売上2,000億円の達成」に向け、現在スマートフォン向けカメラ用アクチュエータでは1stサプライヤーの維持に加え、顧客数の増加も進行中です。また、新しいVR機器やそれを活用したゲーム機に向けてハプティック®を提案。採用は好調に推移しており、今後も成長が期待されます。これらにより、2017年度は売上高5,140億円、営業利益529億円と「GT510」を1年前倒しで達成することができました。

新たな事業の柱として、次期中期経営計画での売上600億円を目指すEHII市場向けでは、大手重電企業や電力会社とのエネルギーに関する取り組みが進展するとともに、子会社アルプス・システムインテグレーション(株)と共同で幅広い業界へのIoT提案を進めるなど、各種の活動が進行しています。

	目 標	施 策	本年度の結果
1	車載市場向け売上 3,000億円の達成	1.車載モジュールの収益増加 2.車載デバイス製品 ラインナップの拡大	自動車の電子化が加速する中、電子シフターやドアモジュールなどのモジュール製品、Bluetooth®やW-LANなどの通信ユニット及びセンサをはじめとした車載デバイス製品が全般にわたり堅調に推移。
2	モバイル市場向け売上 2,000億円の達成	1.1stサプライヤーの維持・拡大 2.新モバイル機器へのビジネス開拓 (PC・ウェアラブル・ バーチャルリアリティ・ドローン等)	スマートフォン向けカメラ用アクチュエータが大きな伸びを示し、スイッチなどコンポーネント製品も順調に推移。ハプティック®を搭載するゲーム機販売の活況により好調に推移。
3	EHII向け売上 600億円の仕込み	1.第9次中期経営計画に向けた仕込み 2.高付加価値製品の拡販 3.他社との協業による オープンイノベーションの拡大	大手重電企業や電力会社との電流センサを用いたエネルギー・マネジメントに関する取り組みが進展。IoT技術と連携したビル管理や体調管理などに用いる各種センサを、さまざまな市場に具体的な提案活動を実施。

今後の取り組み

2018年度の売上高は前期比1.6%減の5,060億円、営業利益は22.5%減の410億円を予想しています。

第8次中期経営計画の最終2018年度を迎え、各市場では大きな転換期を迎えており、モバイル市場においては過去数年間にわたったスマートフォンの成長が鈍化する見通しです。一方、車載市場では、技術革新により「Connected(つながる車)」「Autonomous(自動運転)」「Shared & Services(シェアリング)」「Electric(電動化)」への動きが加速。この「CASE」に自動車各社はもとより、さまざまな業界が取り組むなど「100年に一度の大変革」が始まっています。

この中で当社では、車載市場向けモジュール製品で一層の収益改善を進めるとともに、同デバイス製品ではシェア拡大を図ります。モバイル市場においては、スマートフォン市場の成長鈍化に対し、設備償却期間

を短縮して早期に利益回復に向かわせ、また、既存設備を徹底活用することで固定費を抑制しつつ新製品の開発を行い、高機能製品における1stサプライヤーの維持、拡大に努めます。これらの取り組みによって「量」から「質」への転換を進め、車載市場とモバイル市場での「収益の両輪化」を追求する一方、車載市場でのCASE領域に向けた製品開発に重点を置いて、次期ビジネスの確保に向けた取り組みに拍車をかけます。EHII向け事業では、当社グループ一体となった提案活動の継続と他社との協業により、事業基盤の早期確立に努めます。また、国内外での生産体制の拡充、及び生産性の向上に向けた各種取り組みを進めます。

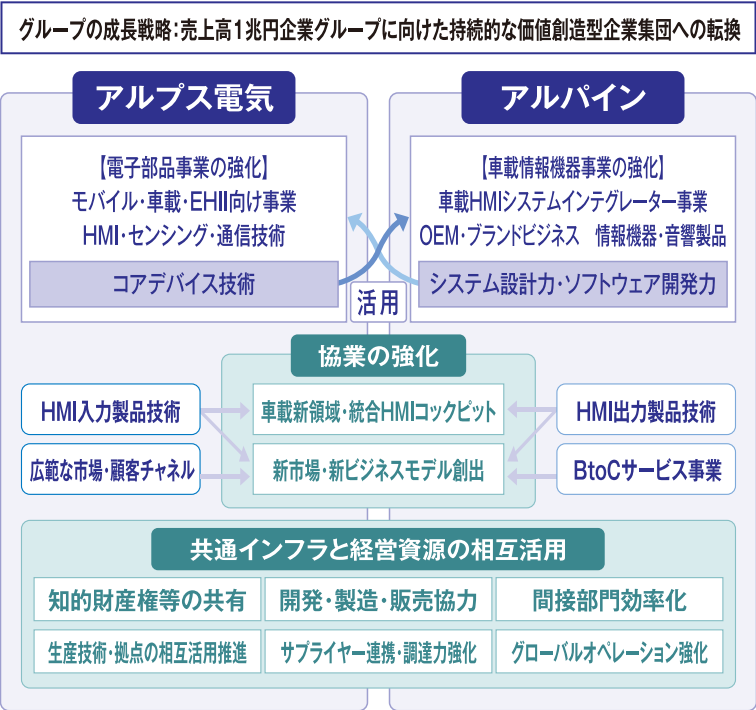
去る4月26日、「アルプス電気とアルパイン経営統合の進展について」説明会を開催しました。概要は以下のとおりです。今後、計画どおりに経営統合を進めてまいります。

自動車産業ではCASE(Connected(つながる車)、Autonomous(自動運転)、Shared & Services(シェアリング)、Electric(電動化))という大変革が始まろうとしています。EHII (Energy, Healthcare, Industry, IoT)市場においては多種多様な顧客とさまざまなビジネスモデルが生まれるものと予想されます。このような激動と変革の時期において、アルプス電気とアルパインが経営統合を行うことで、両社の強み、即ちアルプス電気の電子部品でコアデバイスを深耕

して製品力を高める「縦のI型」と、アルパインの広範なデバイスや技術をシステムに仕上げる「横のI型」を合わせて「T型」企業 (Innovative T-shaped Company) になろうと決意しました。この「T型」企業になることで、第2次中期計画迄には売上高1兆円、営業利益率10%達成を目標とする「ITC101」を掲げ、自動車市場での車載新領域「CASE+Premium HMI」と、社会で大きな役割を成すであろう「EHII」領域を中心に、社会に貢献し、持続的成長が可能な企業を目指します。

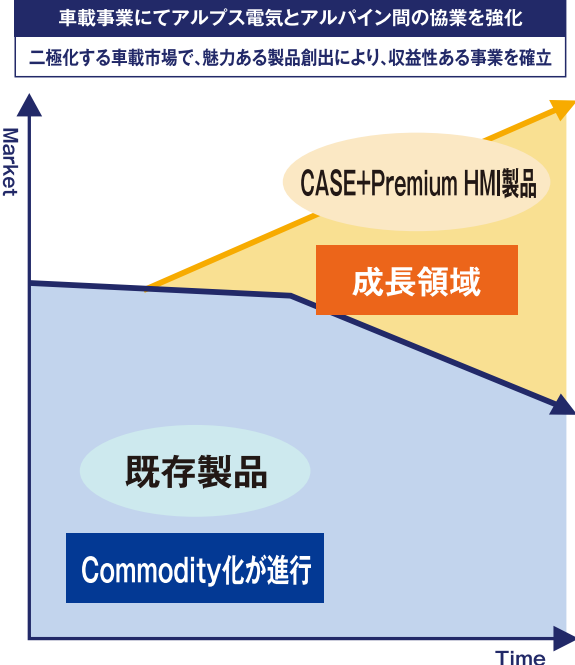
本経営統合の狙い

2017年7月27日 公表資料



統合シナジーによる車載新事業の創出

2018年4月26日 公表資料



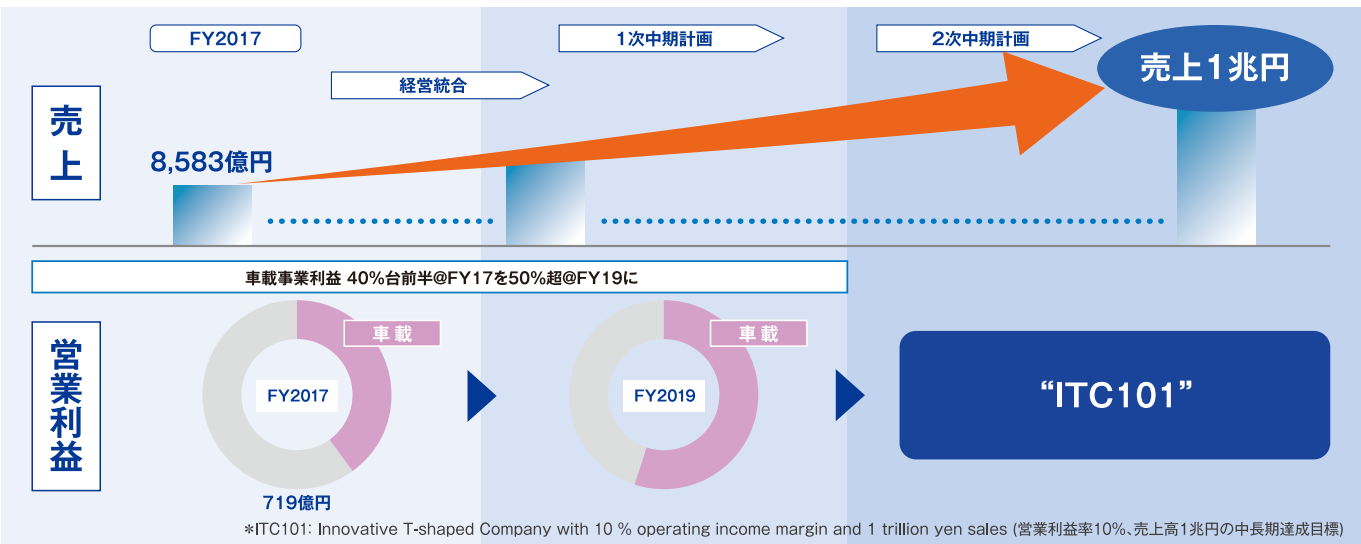
CASE+Premium HMI領域への事業拡大

2018年4月26日 公表資料



統合後の中長期目標 “ITC101”

2018年4月26日 公表資料



2017年 11月 ●アルプス電気、アルパイン広告看板を設置

2018年 4月 当社とアルパイン(株)は、この度、両社の企業認知度の向上を目的とし、東京・五反田及び宮城・仙台駅前に、共同で社名広告看板を設置しました。



JR五反田駅西側



仙台駅西口に設置

2017年 12月 ●角田工場開設50周年

当社角田工場(宮城県角田市)は、仮工場開設から昨年50周年を迎えました。これに伴い、去る12月、日頃より多大なご支援、ご協力を頂く地元自治体やお取引様などをお迎えし、「感謝パーティー」を執り行いました。

角田工場は1967年、地元の小学校跡に仮工場を設置。当初従業員約70人でテレビ用UHFチューナーの生産を開始しました。現在は1,200人を超える人員で、タクトスイッチ®や車載用通信モジュールを中心に生産しています。

今後も地域の皆様とともに末永く発展できるよう、努力を続けてまいります。



更なる発展を祈願した鏡開きの様子

2018年 1月 ●2017年度第3四半期決算、業績修正、増配を発表

2018年 2月 ●中国・無錫アルプス新工場棟、竣工式典を開催

無錫アルプスでは、本年1月31日に新工場棟が完成し、2月に竣工式典を執り行いました。

当日は無錫市政府などをお招きし、工場見学及び敷地内で記念の植樹式を実施しました。

2階建ての新工場棟ではスマートフォンなどのモバイル機器、及び車載向け製品を生産。今後、マーケット需要に適応した生産活動を通して、同国の経済に貢献すべく、鋭意取り組みを進めてまいります。



無錫アルプス 新工場棟



竣工式典で執り行われたテープカット

●アルプス電気とアルパインの経営統合のスキーム変更及び持株会社名の変更を発表 ※9-10Pで詳しくご説明しております。

2018年 4月 ●アルプス電気、アルパイン、アルプス物流他グループ合同入社式を挙

●2017年度通期決算を発表

グローバル新規顧客開拓に向け、各国展示会に出展



アメリカ

●世界最大規模のエレクトロニクスショー「CES 2018」

1月9日~12日

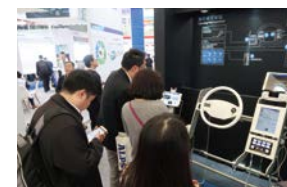
自動運転車に向けて、運転席周辺機器の操作をジェスチャーで行う、静電入力デバイスのデモンストレーションを実施。



中国

●中国最大級の電子部品総合展示会「electronica China 2018」 3月14日~16日

車の運転席周辺での入力機器を展示し、多彩な操作感覚が体感できるデモンストレーションを披露。当社ブースには5,000人を超える来場者がありました。



インド

●南アジア最大規模のICT(情報通信技術)展示会「Convergence India 2018」 3月7日~9日

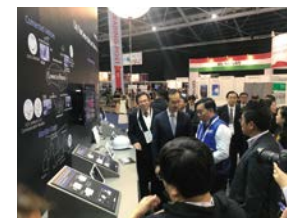
インドでの初出展となる当展示会では、「センサ・ネットワーク・モジュール」を中心に、IoTの具体的な取り組み事例の他、車載用通信モジュール、車載向け各種センサなどを紹介しました。



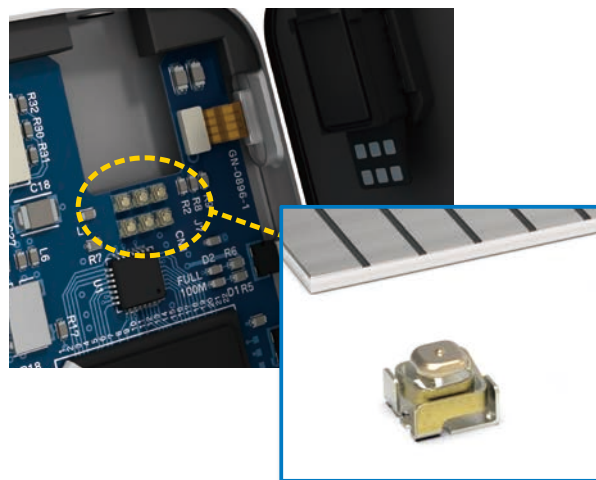
シンガポール

●アジア太平洋地域最大級のIoT専門展示会「IoT Asia 2018」 3月21日~22日

スマートシティ、インダストリ4.0に向けたIoT向け製品を展示。会期中、シンガポール政府 コー・ポークーン大臣が当社ブースを視察。メディア取材も行われ、当社認知度の向上につながりました。



安定した高周波性能が求められる部品接続にラインアップを追加 圧接コンタクト絶縁コート付タイプ



主な用途

- スマートフォンやウェアラブル端末などのモバイル機器内の基板間の接続など

特長

昨今、スマートフォンをはじめとするモバイル機器は、パソコンやカメラなど他機器やインターネットと接続することで、さまざまな使い方が可能になるなど進化し続けています。

このような環境下において活躍する当社の圧接コンタクトは、電子機器内の基板と基板や基板とアンテナなどの電子部品を電氣的に接続する部品です。

本製品は、従来品の内部構造を見直したことにより、大容量データを高速に接続する際の安定性が高まり、機器間通信の利便性向上に貢献します。また、高さバラエティを4種類ラインアップすることで、産業機器などモバイル機器以外の幅広い市場への展開も期待されています。

主な用途

- 自動車のステアリングスイッチ、センターコンソールパネル、カーナビゲーションなどの操作スイッチ

特長

家電・モバイル機器などさまざまな電子機器の入力に用いられるタクトスイッチ®は、電子化が進む車載機器でも搭載が進んでいます。

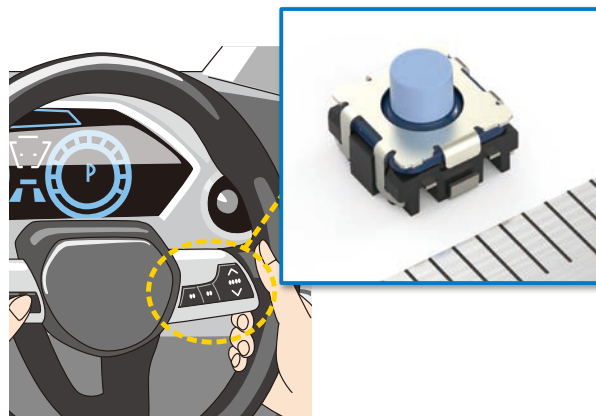
車室内の操作入力は、スマートフォンなど同様にタッチ式が増加していますが、操作ミスを防ぎたい部分にはスイッチが使用されています。

本製品は当社独自の内部構造により、小型サイズと少しの押し込みでも「確実に押した」と認識できる高いクリック感を両立。これにより、運転中の誤操作防止につながるとともに、タッチ式の操作感触と近く、タッチパネル操作との相性にも優れています。

また、操作音を抑えたことで、静音化が進んでいる車室内環境にも対応しています。

タクトスイッチ®はアルプス電気の登録商標です。

小型ながら確実な操作感と静音性を実現 車載用タクトスイッチ®



ALPS SHOW 2018ご招待のご案内



■ 前回開催のALPS SHOW 2016の様様

当社は、9月19日～22日にプライベートショー「ALPS SHOW 2018」を開催いたします。

「ALPS SHOW」はお客様をはじめ業界関係者の方々に、新製品・新技術を紹介するために隔年で開催しているものです。

株主の皆様には、日頃の感謝とともに当社の活動とその成果をご覧頂く機会として、9月22日(土)に抽選で200名様をご招待いたします。

ご希望の株主様は、添付のハガキに必要事項をご記入の上、ご応募ください。

■ 応募要項

- ご招待日 2018年9月22日(土)
- 開催場所 本社(東京都大田区雪谷大塚町)
- ご招待数 200名
- 応募締切 2018年7月9日(月)当日消印有効
- 応募方法 同封の応募はがきに必要事項をご記入の上、お申し込みください。

■ 応募前の確認事項

1. 応募多数の場合は厳正な抽選の上、当選された株主様に8月中旬頃に招待状をご住所へ発送させていただきます。
なお、当選された株主様が代理出席の方を指名されていた場合は、招待状は代理出席の方宛に発送させていただきます。
2. 必ず株主番号と株主様ご氏名・ご住所をご記入ください。いずれか一つでもご記入なき場合のお申し込みは無効とさせていただきます。
3. ALPS SHOWへの入場は、当選された株主様ご本人、若しくは代理の方お一人様のみとさせていただきます。誠に申し訳ありませんが、招待状をお持ちでない方(お連れ様など)はご入場になれませんので、予めご了承ください。
4. ALPS SHOWへお越し頂くための交通費及び宿泊費につきましては、株主様ご本人のご負担となりますので、予めご了承ください。

お問い合わせ先: 03-5499-8026(IR部門直通)
受付時間: 8:20~17:00(土、日、祝日及び8月13日~17日を除く。)

2018年度 IRカレンダー(予定)

詳しいIR情報は当社ホームページをご覧ください。

URL: <http://www.alps.com/j/ir/>

アルプス電気 IR

検索

第1四半期		第2四半期			第3四半期			第4四半期			第1四半期
6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	
● 定時株主総会 招集ご通知発行 ● ALPS REPORT169号発行		● 第1四半期決算発表			● 第2四半期決算発表			● 第3四半期決算発表		● 通期決算発表	
● 定時株主総会 ● 期末配当金支払い開始		● Annual Report発行 ● FACTBOOK発行		● ALPS REPORT170号発行 ● 中間配当金支払い開始			● アルプスアルパイン(株)に移行				